

令和3年度

全中道研 会報

No. 5 令和4年3月30日

全日本中学校道德教育研究会

全中道研

令和3年度を振り返って



令和3年度 全日本中学校道德教育研究会

会長 吉田 修

日ごろからの全中道研の活動にご協力いただいていることに感謝するとともに、地域での道德教育推進の向けご尽力をいただいておりますことに深く敬意を表します。

今年度もコロナ禍のため理事会を開催することができず皆様には大変ご迷惑をおかけしました。全中道研として進むべき道を模索し道德教育の灯火を消さずに一步でも前進する方法を事務局長とともに会長として考えてきました。「沖縄で全国大会を行うこと」「理事の皆様との繋がり確かにすること」「多くの情報を発信すること」でした。そして皆様の英知を結集し沖縄大会をホームページ上で行えたことは、かけがえのない結果となりました。県のご努力により大会を成功裏に導いていただいたことは、道德教育を推進する者への励みになりました。

当初はコロナ禍で来年度以降の全国大会を実施することが可能なか不安を感じながらのスタートでした。しかし、会を重ねるにつれ、開催するための方法を考えることができるようになりコロナ禍であっても形を変えて行えたことは会長として、皆様のその心意気と熱意に私自身の胸が熱くなりました。そして何よりも皆様との絆が深くなったと感じました。予測不能のこの時期に、会長として職を2年間全うできたと感じております。道德

教育の推進を進めるため皆様にどのように貢献できるか考えていたときに、全国の副会長をはじめとする理事の皆様の協力と励ましに支えられていると感じることができました。心から感謝申し上げます。

先日の理事会でもお伝えしたように、令和4年度山形大会についてはコロナ禍でも開催できる全国大会の準備を始めていただいております。直接会場に参加できる方法、リモートやホームページを活用した方法など、この1年間で様々な方法を全中道研として考えました。新型コロナウイルスの感染状況や地域での状況を考え最適な方法で大会を開催できればと考えています。そして、将来に向け新たな大会開催方法についての一步を踏み出したと考えています。

未来の全中道研は、今までの良さを残しつつ新しい方法を取り入れながら発展させていく必要があります。アナログとデジタルを融合したハイブリッドで今まで以上に実り多き全中道研に向けた一步が今年度ではなかったのかと振り返りました。

上廣倫理財団、石橋財団をはじめとする相談役、顧問、参与、理事の皆様に対し感謝するとともに今後の全中道研発展のためにご尽力いただければ幸いです。

< 役員・理事会（第3回）報告 >

2月26日（土）午後1時30分より、オンラインによる全中道研役員・理事会（第3回）を行いました。

主な議題は、次の通りです。

- 令和3年度事業報告及び決算中間報告
- 沖縄大会報告

○令和4年度事業計画及び予算案

○全中道全国大会の今後の予定

○道徳実践事例集第9集

○令和4年度組織

○その他

- ・令和4年度各都道府県代表者報告
- ・令和4年度道徳教育推進教師育成講座
- ・2022年度 道徳教育育成助成金
- ・参与名簿作成のための情報提供
- ・令和3年度道徳教育育成助成報告書

○講演

1 令和3年度事業報告及び決算中間報告

事前に配付した資料をもとに説明した。特に今年度はWebでの開催としたため、その分の経費を基金として繰り越すことにした。そのことも含めて承認いただいた。

2 沖縄大会報告

事前に配付した資料（含む収支決算書）をもとに説明し、承認をいただいた。大会集録については3月中に沖縄県から配送される予定となっている。

3 令和4年度事業計画及び予算案

事前に配付した資料をもとに説明し、承認いただいた。

4 全国大会の今後の予定

(1) 令和4年度 山形大会

大会主題は、「『いのちを輝かせ よりよい生き方を拓く 道徳教育』～確かな教材研究に根ざし 他者と響き合い 自己を見つめる 道徳科の授業づくり～」として、令和4年11月10日（木）～11月30日（水）の期間で全中道研ホームページによるWeb開催で実施する。内容については、

○開閉会式：ホームページ上（PDF）

○公開授業：動画配信

（山形市立第三中学校1～3学年の代表学級）

○課題別分科会

第1分科会「道徳科の授業づくりの工夫」

担当地区 北海道・九州・近畿・中国・
開催県（山形）

第2分科会「道徳教育を推進する指導体制のあり方」

担当地区 東京・四国・北陸東海・関東・東北

※ 提案方法についてはPDF・動画、質疑についてはライブでの方法についても可能性について検討する。指導助言については、質疑の内容を踏まえて作成しホームページで公開する。

○指導講話：動画配信

○大会集録：作成して送付する

申込方法については、沖縄大会と同様に、member登録によって大会参加が可能になる形式で対応する。

(2) 令和5年度 北海道（函館）大会

日程は11月1日（水）・2日（木）で設定している。会場・主な内容は、1日目は函館市内の小・中学校での授業公開・授業分科会・課題別分科会を行う予定である。2日目は函館市民会館で開会式・指導講話・閉会行事を午前中に行うコンパクトな形での計画を検討している。

(3) 令和6年度 神奈川大会

川崎市で11月21・22日の日程で計画している。

(4) 令和7年度 岐阜大会

岐阜地区で開催予定、今後詰めていく。

(5) 令和8年度 東京大会

東京大会は市部での開催を予定している。具体的なことについてはこれから進める。

5 道徳実践事例集第9集

道徳実践事例集については、各ブロックから1事例の原稿をいただくことになる。配付文書の「推薦のポイント」を確信の上、令和3・4年度 of 取組から実践者を選んでいただく。令和4年11月上旬には原稿を入稿する予定である。推薦者の選定し、事務局まで報告をお願いしたい。

6 令和4年度役員組織

吉田会長から次期会長については、現事務

局長の月田 行俊（江東区立有明中学校長）を、事務局長については、現事務局次長である木村 友広（板橋区立赤塚第二中学校長）をとの提案があり、両名が選出された。

7 その他

（１）令和４年度各都道府県代表者報告

令和４年度の組織について、各都道府県の理事、ブロック代表者（副会長）名を、別紙報告用紙にてご報告いただく。特に、代表者のご退職・ご退任の場合、新年度の代表者との引き継ぎや報告についてご配慮願いたい。

※総会が６月に入ってから開催される地区については、内定の段階で５月末までに報告していただき、変更があった場合は、改めて再度報告をお願いしたい。

（２）令和４年度道德教育推進教師育成講座

来年度の推進教師育成講座は、東京の会場とＺＯＯＭでのハイブリッド型で４０名程度の参加者で検討している。全国大会やブロック大会開催地区の方については参加をお願いしたい。また、他の地区でも講座に参加させたい方がおられる場合は推薦をお願いしたい。

（３）２０２２年度 道德教育育成助成金

助成金についても、引き続き、全ての地区で助成金を申請していただき、地区大会を開催して若手の育成を図る計画等のご準備をいただきたい。

（４）参与名簿作成のための情報提供

副会長のうち、令和３年度をもって、副会長職をご勇退される方は、教員として現職であっても全国参与という立場で、道德教育に関わっていただくことになるので、情報提供をお願いしたい。

（５）令和３年度道德教育育成助成報告書

今年度申請していただいた、北海、山形、埼玉、群馬、東京、岐阜、静岡、近畿、四国、山口、沖縄については、報告書を提出していただくことになる。報告書はＡ４版両面で、３月中に事務局までお願いしたい。成果物については、事務局に１０部提出をしてい

ただき、各地区に配布することが可能であれば、それは各地区で検討の上、資料提供をしていただきたい。

8 講演「道德教育の充実に向けての課題」

文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官
国立教育施策研究所教育課程研究センター
教育課程調査官
飯塚 秀彦 先生

「道德教育の充実に向けての課題」について、「令和３年度道德教育実施状況調査（途中経過）」と関連付けてご講演いただいた。

調査の概要としては、小・中学校対象（無作為抽出）のものについては、

- ・学校の教育活動全体を通じて行う道德教育について、その全体計画作成にかかる留意点、学校による取組や課題
- ・「特別の教科 道德」について、実施上の工夫や課題
- ・道德教育の充実について、校内研修の実施状況や学校による取組、
- ・道德の「特別の教科」化を受けての変化
教育委員会対象のものについては、
- ・教育委員会としての取組
- ・道德教育の充実に向けて直面している課題
- ・道德の「特別の教科」化を受けての変化
といったものである。

調査結果から浮かび上がった課題等について、「解説 総則編」や「解説 道德編」の内容と照らし合わせながら、我々が意識して実践していく必要のあるポイントを整理していただいた。

ブロック大会四国大会(高知大会)報告

高知県道德教育研究会事務局長 和田礼史

第２７回四国小・中道德教育研究大会

第５５回高知県道德教育研究大会

- 大会主題「よりよく生きるための基盤となる道德性を養う道德教育の展開」
～自らを見つめ生き方を深く考える道德科を要として～

○期間 令和3年11月1日(月)～2日(火)

○会場 南国市立北陵中学校
サザンシティーホテル

○大会概要

四国地区では、小学校と中学校とが合同で研究会を組織し、2年ごとに各県持ち回りで研究大会を開催している。本来ならば、令和2年10月末に本研究大会は開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止等のため、やむなく1年延期とした。

本年度に入り、高知大会の開催に向け、四国各県の道德教育研究会の協力を得て準備を進めてきたが、夏場の全国的な感染拡大や若年世代への感染の広がりなどから、参集方式による大会開催を断念し、公開授業については、後日、「動画配信」を行うこととし、課題別分科会については「紙上発表」とした。

後日、会場校の教職員と大会主催者に参加者を限定し、12月27日に本大会会場校であった南国市立岡豊小学校・南国市立北陵中学校の取り組み発表を行い、高知大学大学院 教授 森有希氏より講評をいただいた。

また、記念講演として高知学園大学教授 田邊 重任氏よりご示唆をいただいた。

大会主題については、これらの時代を児童生徒が生き抜くことができる資質・能力を育成することを念頭におくとともに、人間としてよりよく生きる力を育むという本来的な意味を大切にしながら、道德教育・道德科の改善、充実を図っていくことを目指し、「よりよく生きる基盤となる道德性を養う道德教育の展開」とした。

大会会場校の南国市北陵中学校では、大会主題を受け、研究テーマを「自己を見つめ、よりよく生きようとする生徒の育成」～「考え、議論する」道德科の授業を要として～とし、「考え、議論する」道德科の授業づくりを推進することで、生徒自身が自己を見つめ、よりよく生きようとするにつなげていくのではないかと、ひいては、本校が目指

す「挑戦する力」「コミュニケーション力」の育成につながるのではないかと考え、本テーマを設定した。

授業づくりにおいて特に大切にすることは(①人間関係②生徒理解③指導技術④内容・資料理解⑤学び方)である。そして、授業を通して「自己の生き方についての考えを深められる」よう工夫し、1～3年(3学級)で公開した。ビデオ撮りをした授業を、後日(約1か月間)、限定で動画公開をした。

道德科の授業においては、生徒一人一人が内なる自分に問いを発し、自己内対話を深めることができるように指導の工夫を行い、自己の生き方についての考えを深めていけるようにしていくことが大切である。このことを学習指導案(北陵中学校ホームページで公開中)や授業記録を通して読み取っていただければ幸いである。

課題別分科会は、令和2年度に開催予定であった第55回全日本中学校道德教育研究大会(高知大会)で予定していた分科会テーマの

「道德教育の学習指導の多様な展開」「教材の開発と活用の創意工夫」「道德科の指導と評価」「家庭や地域社会との連携を生かした道德教育」の四つのテーマを設定した。テーマごとに1本(合計4本)の実践報告を大会紀要に掲載し、紙上発表とした。

これらの実践発表を予定通り行うことができれば、多くの参加者が貴重な実践に学ぶとともに、意見交流等を通して提案者の労に報いることができたと思われるが、紙上発表となり残念で仕方がない。それぞれの実践から学ぶべきことは多い。今後の道德教育推進のために生かしていただくことを望んでいる。

○記念講演

高知学園大学教授 田邊重任氏をお迎えし12月27日に会場校の教職員と大会主催者に参加者を限定し、「自己を見つめる道德教育」と題してご講演をいただいた。自分の存在を問う深い学びに向かうよう指導の工夫を行

い、子どもが本気になる質の高い道徳科授業実践を指導者が心掛けていくために大切にしなければならないことについて貴重なご示唆をいただいた。

ブロック大会東京大会報告

東京都中学校道徳教育研究研究会 菅野 由紀子

○期間 令和4年2月8日(火)

○会場 東京都世田谷区立桜丘中学校

○方法

ZOOMを活用したオンライン開催。ハイブリット方式で、公開授業、研究発表、指導講話をリアルタイムで配信した。

○内容

大会主題

「教科の特質を生かしつつ、これからの

時代に対応する道徳科の指導の工夫」

東京都では道徳科の特質を最大限に生かしながら、新しい生活習慣における持続可能な指導法の工夫及び授業時数を確保しつつ、

「道徳科の不易(特質)をつなげるために、流行(施策)をどのように取り入れるか」に迫った。研究部会はコロナ禍の中で参集型とオンライン型を活用しながら、GIGAスクール構想やSDGs(ESD)など、国や東京都の施策と関連付けた道徳教育におけるカリキュラム・マネジメントの考え方、教材や資料などを研修し、「ICT機器を活用した道徳科の授業改善」、「SDGsと関連付けた道徳教育」を要に研究の成果を発表した。また、本会では、毎年「道徳教育の充実に係るアンケート調査」を実施して、東京都の傾向を知るとともに、子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと、協働的な学びの実現の方策を追究する研究の拠り所としている。

○公開授業

ワークショップやミニ研修の成果を生かし、タブレットPCを活用した公開授業を通じて、これからの時代に対応する道徳科の指導の工夫について提案した。

4つの教室からZOOMで視聴できる環境を設定し、例年に倣い、東京都中学校道徳教育研究会の研究部員が授業を行った。まん延防止等特別措置の中、家庭から学習者用端末で授業に参加する生徒もいた。

【1年：2クラス公開】

内容項目「D よりよく生きる喜び」

教材「撮れなかった一枚の写真」

授業者(研究部員)

戸上 理子教諭(文京区立第九中学校)

海老沢 宏主幹教諭

(八王子市立宮上中学校)

【2年：2クラス公開】

内容項目「C 公平・公正」

教材「国際パラリンピック委員会公認教材

『I'm POSSIBLE(アイムポッシブル)』」

授業者(研究部員)

植木 幹明主任教諭

(世田谷区立上祖師谷中学校)

曾根 岬大教諭

(世田谷区立東深沢中学校)

○研究発表

【研究部の1年間の活動について(まとめ)】

加藤 敏久校長(世田谷区立桜丘中学校)

西川かなで教諭(世田谷区立桜丘中学校)

大谷 初音教諭(世田谷区立桜丘中学校)

○指導講話

国立教育政策研究所教育課程研究センター

研究開発部 教育課程調査官

文部科学省初等中等教育局教育課程課

教科調査官

飯塚 秀彦 様

演題

「これからの時代の道徳科の指導の工夫」

今年度は、各地区で研究大会を中止せず、様々な工夫の上に実施した年となりました。次年度も子供たちのよりよい生き方を拓くために、力を合わせて取り組んでいければと思います。1年間、ありがとうございました。